



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第18号(R4. 7. 7)

剣道部男子団体・準優勝、剣道部女子団体・第3位、筑前地区大会進出!

7月2日(土)・3日(日)に開催された宗像区剣道大会で、本校剣道部は団体戦で男子は準優勝、女子は第3位になり、ともに筑前地区大会への進出が決まりました。

また、個人戦においても、男子は重見渉太さんが見事優勝、伴啓介さんが4位で筑前地区大会へ進みます。女子は、和多こはくさんが準優勝し筑前地区大会の切符を手にしました。

筑前地区剣道大会は、16日(土)・17日(日)にアクション福岡で開催されます。みんなで応援しましょう。



陸上部男子総合・優勝、陸上部女子総合・優勝、筑前地区大会進出!

7月6日(水)本城陸上競技場で開催された宗像区陸上大会で、本校陸上部は、総合得点で男女アベック優勝を飾りました。男女とも96点という2位に30点近くの大差をつけての圧倒的な強さでした。

個人種目においても男女とも多数の筑前地区大会進出者を出し、紙面に入りきれませんのでネットにて大会結果をご覧ください。

なお、大会新記録を3名の選手が出しました。

1500mで8年生橋本隆太郎さん4:17:27。

低学年100mハードルで8年生堀田朔玖さん14.31。

砲丸投で9年生大塚涼也さん11m54。

筑前地区陸上大会は、21日(木)に博多の森陸上競技場で開催されます。



授業研修の風景

今週も2つの授業研修が行われました。本年度は、研究推進委員会によりグループ制で行っていますので、研究協議会に参加する先生の数も多く活発な協議を行っています。

古賀先生(理科)

7月5日(火)第2理科室にて9年4組による運動とエネルギーの単元において、実験による授業研修が行われました。



滑車などの道具を使った場合と道具を使わない場合とで、仕事の大きさがどうなるのかを実験の結果をもとに説明できるかが授業のカギとなりました。実験をもとに個人の考察をプリントに記述し、グループ内でしっかりと説明できていました。実験の際の集中力と実験の協力体制がとても素晴らしかったです。

【 協働学習・交流活動に優れた河東中生徒 】

今回の古賀先生の授業のすばらしさの一つに、グループで行った実験の質の高さがあります。それは、古賀先生の実験器具の準備や電子黒板を使っの細かい手順の説明によりますが、9年4組のグループ内での協力体制のすばらしさと集中力にもよります。また、このクラスはグループ内で実験結果の考察を自分の言葉ではっきりと説明し合っていました。道具を用いる場合と用いない場合とで仕事の大きさが変わらないことを実験結果の数値から説明することができました。つまり、実験を通して仕事の原理についてはっきりと説明ができるようになったわけです。面白いことに、実験前の予想では、ほとんどの生徒が仕事の大きさは小さくなると予想していて、実験の過程でなぜ予想と結果が違うのかを考えていました。実験の過程で、あれこれ論議していましたし、結果をもとに自分の出した結論を話し合っていました。

今の時代に求められているのは、「主体的・対話的で深い学び」です。古賀先生の授業はまさにこの3つを実現した授業と言えるでしょう。また、その学びが高度にできる9年4組のみなさんは大変すばらしいと思いました。何が起こるかかわからない不透明な時代に、課題に対してグループで一緒に作業しながら話し合いながら、解決していこうとする姿勢は本当に大切なことです。



数字を残すために〇〇をやっているんですか？

～元侍ジャパン監督・小久保裕紀さんとメジャーリーガー・イチロー選手の会話より～

中体連の宗像区大会が各種目とも試合が進んでいます。河東中生が次々に筑前地区大会進出を決めています。また、クラブチームでの上位大会への進出も耳にしています。

一方、9年生の中には今回の大会を最後に引退する者もすでに出てきています。3年間の集大成を終え、後輩にバトンを渡した人もいます。3年間の活動を終えるときには、いろいろな感情があると思います。やり切ったという気持ち、悔しいという気持ち、まだやりたかったという気持ち……人によってさまざまでしょう。その気持ちを自分の中で大切にしてほしいと思います。何かを終えた時の感情は、人を大きく成長させるものです。

現在、ソフトバンクホークスの2軍監督を務める小久保裕紀さんが現役選手の時の話です。イチロー選手とのやりとりが新聞にのっていましたので紹介します。

小久保さんがまだダイエーホークスという球団名の時、プロ2年目で本塁打王になりました。しかし、翌シーズンは成績がふるいませんでした。一方、オリックスのイチロー選手は3年連続の首位打者へ向けていい調子でした。そんな中で迎えた7月のオールスターゲームの練習中の二人の会話です。小久保さんの思い出として新聞に記事としてのりました。

『その年のオールスターゲーム。外野を二人でランニング中に彼(イチロー)に聞いた。

「モチベーションが下がったことないの？」

するとイチローは私(小久保)の目を見つめながら、

「小久保さんは、数字を残すために野球をやっているんですか？」

と言った。

「僕は、心の中に磨き上げたい石がある。

それを野球を通じて輝かせたい。」

自分はなんと恥ずかしい質問をしたのかと、顔が赤くなった。

彼の一言で「野球を通じて人間力を磨く」というキーワードを得た。』

3年間の部活動を終えるときに、様々なものが自分の中に残ります。その残るものを生涯大切にしてほしいと思います。種目の技術だけでなく、イチロー選手が言うように人としての成長、仲間との絆、親や指導者への感謝の心……。勝ち負けや数字だけではない、大きな何かが河東中生の心に残ることを願っています。

